

写真で見る栄光の記録

—— 上毛スポーツ賞より ——

平成 18 年度～平成 27 年度

写真提供：上毛新聞社



2007年（平成19年）3月20日付 上毛新聞より
〈平成18年度〉

水泳

池田 翔選手(15)

渋川北中3年



全中水泳で2冠を達成した池田選手（田内七）

第46回全国中学校水泳競技大会の男子自由形二百メートル同四百メートルの両方で大会新記録を樹立し、2冠を達成した。表彰台の中央に立つことは、競技水泳を始めた小学4年からの念願だった。



2種目で大会新V

ただうれしかった。だが、満足はしていない。二百メートルでは内田翔（高崎商一法大）が築いた中学生記録に0.3秒及ばなかった。昨年10月の兵庫国体ではまさかの予選敗退。上を目指すためには高校生や大人と戦って勝たなければ。一日の時間半の水中トレーニングと1時間の陸上トレーニングに取り組み、前半に力をつける。後半に勝負をかけてられるスタミナを鍛えている。水泳を始めた5歳の時から、常に成長するのを楽しみながら練習をしてきた。力が付いているのがわかるから、水泳がどんどん楽しくなってきたと話すと、目を輝かせる。

△ 高校生の部 ▽

インターハイ、国体制す



インターハイを制し、国体制覇に貢献した前橋商高水球部

昨年の全国高校総体（インターハイ）で、3年ぶり8度目の全国制覇を達成。その勢いに乗り、同部メンバーが主体となって挑んだ団体でも、10年ぶり6度目となる栄冠を手に入れた。2冠を達成した国体のプールサイドで、本宮万記監督は「すくすくとした最高の瞬間を喜びました。強さの秘訣は練習量の多さ。水中の泳ぎ、込泳はもう、通常の筋力トレーニング、陸上練習ももうそたしなない。」

水球

前橋商業高校 水球部

大きな成果を取った今シーズン、チームの中心となったのは190センチのエース、柳瀬彰良。国体決勝ではチームの全得点を決め、大活躍を見せた。高校卒業後は日本大に進学し、さらに競技に専念する。代替わり後の新チームは、第29回全国JOCジュニアオリンピックカップ関東予選（1月）で優勝を飾り、好スタートを切った。1900年に誕生した同部は今年で39年目を迎える。伝統を土台にした、新生前橋商高水球部のさらなる飛躍に期待がかかる。

2008年（平成20年）3月24日付 上毛新聞より
〈平成19年度〉



全中の男子200m個人メドレーで優勝した正田選手

水泳

正田 達成選手(15)

太田綿打中3年

昨年8月、岩手県で行われた全中水泳大会に全中（全日本）の男子二百個人メドレーで、自己ベストを記録し、優勝した。昨年8月、岩手県で行われた全中水泳大会に全中（全日本）の男子二百個人メドレーで、自己ベストを記録し、優勝した。昨年8月、岩手県で行われた全中水泳大会に全中（全日本）の男子二百個人メドレーで、自己ベストを記録し、優勝した。昨年8月、岩手県で行われた全中水泳大会に全中（全日本）の男子二百個人メドレーで、自己ベストを記録し、優勝した。

個人メドレー 自己新で制す

小学3年から競技を始めた。4年時は全国JOCジュニアオリンピックカップの二百個人メドレーで4位になり、非凡さを発揮。昨年1月の県中学総体四百個人メドレーでは、4分39秒77の大会新記録で3連覇を達成した。高崎の群馬SSで腕を磨く。平日は5時間、週末は5時間以上のトレーニングをする。一万回の回泳（ごっこ）もある。前橋商高に進学するが、「高校はレベルが違う。インターハイの決勝に残れるよう頑張りたい」と新天地での飛躍を誓う。

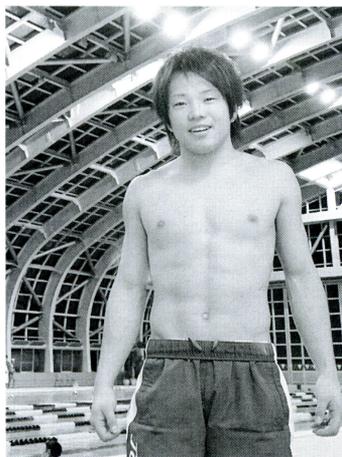
水泳：飛び込み 村上 和基選手(18)

前橋青英高3年

昨年の室内選抜、日本選手権を制し、得意の高飛び込みで名馳る。日本一の座を明け、インターハイ、国体では、板飛び込みも奪って高入りを達成した。身長155センチ

「国内」総なめ 次は「世界で」

良い決まり方は、自分の飛び込み人生で初めて、企画を張った。五、六年前、アメリカで行われた国際大会では、得意だった、振る舞いだった。日本王者の今後の目標は、「世界で結果を出さう」と、高い難易度の技に挑戦しながら、技の安定性を高めるのが大きな課題となる。今年の最大目標は、北京五輪出場。は、代表選考会を兼ねた。目のワイルドで演技を失敗、夢を逃し



高飛び込み日本選手権を制した村上選手

▲ 高校生の部 ▼

2011年(平成23年)
3月28日付 上毛新聞より
〈平成22年度〉

水泳

内田 美希選手(16)
関学附高1年

抜群の泳力
3大会で優勝

昨年4月の日本選手権女子50メートル自由形で4位入賞、8月の神栖インターハイと7月の千葉国体で同種目を制し、国体では100メートル自由形の2冠を達成。今年4月の日本短水路選手権女子50メートル自由形では五輪選手とを破り、日本記録1分09秒の1秒差まで迫る24秒92の高校新(も)に短水路で優勝した。



ダイナミックな泳法が持ち味の内田



の恵まれた体格を生かしたダイナミックな泳法が持ち味。今季は国内トップレベルの選手と互角に渡り合い、精神的に強くなった。準決勝の同種目で5位入賞(内田)と成長を実感。賞金全入では日本中、学生記録を破る記録で優勝。後には、一次は日本新を狙い、同世代のバウンディングを築いた。170センチは高さの目標を掲げる。

水泳

福田 智代選手(21)
前橋国際大3年

昨年4月の日本選手権100メートル個人メドレーでは女子100メートルバタフライ2連覇を果たした。この順に立ち、9月の日本学生選手権同種目も制し、活躍した昨年、女子50メートル、千葉国体成年女子200メートルの日本記録を樹立。



日本選手権女子100メートルバタフライで優勝した福田

県中学新で全中制す

水泳

浮島 直登選手(15)
前橋東中3年

昨夏の全国中学校体育大会競泳男子200メートルバタフライで、自己持った大会競泳男子200メートルバタフライを2秒余り縮めた。

県中学新となる2分29秒96で初制覇。100メートルも県中学新となる56秒26で3位入賞を果たした。水泳は3歳から始めた。小学生時代はキック力も、中学生になってから



「高校1年のインターハイからは腕のかきを強化。力強い泳ぎと水をつかむ感覚に自信を持っている。」

ハイから上位入賞を狙いたい」と意気込む浮島。その先に見据えるのは、大学3年でのリオアデジャネイロ五輪出場だ。

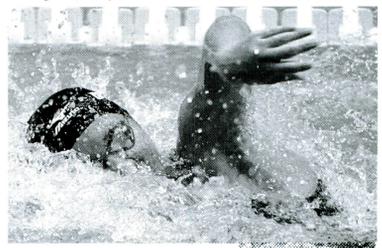


力強いバタフライの泳ぎを見せる浮島

全中競泳男子200メートルバタフライを2分29秒96の県中学新で初制覇した浮島

国体で3連覇達成

女子50メートル自由形でインターハイ、国体ともに優勝した内田



水泳

内田 美希選手(17)
関学附高2年

昨年5月のジャパン・オープン競泳女子50メートル自由形で25秒67の高校新を記録。同8月のインターハイ同種目では自身の高校記録を更新する25秒59をマークし、インターハイ2連覇を達成。順調な



成長を印象づけた。力強くダイナミックな泳ぎで次々と記録を塗り替える勢いは止まらず、同9月の山口国体の少年女子A50メートル自由形も25秒61の大会新記録で優勝。中学3年、高校1年と同種目で国体3連覇を達成した。最大の目標として「ロンドン五輪出場」を掲げる17歳はインターハイ、国体とも目標タイムを25秒44と設定していたが、いま一歩及ばなかった。「自分の武器である前半のスピードをもっと磨き、後半ももっと力強い泳ぎをする」と課題を挙げ、夢舞台に向かって意気込みをみせる。

水泳

浮島 直登選手(16)
前橋育英高1年



I H王者抑え初優勝

昨年9月の山口国体少年男子100メートルバタフライで初優勝した、インターハイ王者を抑えての頂点に、こうしたもつち、大会でつらかった。うれしい受賞を見た。武器は、力強いキックと、長い腕を生かしたダイナミックな泳法。中学3年で挑んだ全国中学生大会の200メートルバタフライで優勝するなど、県競泳界のホープとして注目されている。

3月のシンガポール選手権大会の中高校生日本代表にも選ばれ、海外レースを経験。身体が大きくなると泳ぎを相手に管々とした泳ぎを披露した。

自らの選手は、北京五輪で8冠を達成したマイケル・フェルプス、フエルトスのように、五輪に出たい」と話す。伸びの16歳は、4月の全日本選手権でも活躍が期待される。

2012年(平成24年)
3月26日付 上毛新聞より
〈平成23年度〉



2013年（平成25年）3月26日付 上毛新聞より
 〈平成24年度〉

日本勢初五輪舞台へ

▼ 一般・大学生部門 ▼

水泳

貴田 裕美選手(27)
 ALSOK群馬

昨年8月のロンドン五輪出場券を手に、専門の競泳コーチに日本勢初の五輪出場券を手にした。2011年に出場し、10年ぶりに五輪の舞台に立つことになった。1時間強の競泳で、13位に入賞した。競泳の舞台に立つのは初めて。競泳の舞台に立つのは初めて。競泳の舞台に立つのは初めて。



ロンドン五輪競泳女子1000メートル、13位で入賞した貴田選手

持久力生かし全中V



全中競泳男子400メートル個人メドレー決勝で初優勝を果たした天田選手

水泳

天田 雄大選手(15)
 高崎佐野中3年

昨年は全中男子400メートル個人メドレーで優勝した。今年からは全中男子400メートル個人メドレーで優勝した。今年からは全中男子400メートル個人メドレーで優勝した。今年からは全中男子400メートル個人メドレーで優勝した。

▼ 高校生部門 ▼

五輪7位入賞に貢献

水泳

内田 美希選手(18)
 関学附高3年

ロンドン五輪競泳女子50メートル自由形で7位入賞した。今年、東京五輪に向けて、競泳の舞台に立つのは初めて。競泳の舞台に立つのは初めて。競泳の舞台に立つのは初めて。



ぎふ清流国体少年女子A50メートル自由形決勝 大会新で2冠を達成し、応援団に手を振る内田選手

2015年（平成27年）3月26日付 上毛新聞より
 〈平成26年度〉

前回の雪辱果たす

水泳

高橋 洸輝選手
 前橋六中3年

前年8月に水泳の全国中学校大会で、全中の競泳男子500メートル自由形を1分38秒で制し、同日には国体の少年男子400メートル自由形で8位入賞を果たした。



全国中学校大会の競泳男子1500メートル自由形を制した高橋選手
 昨年8月、高崎市

水泳

内田 美希選手
 東洋大2年

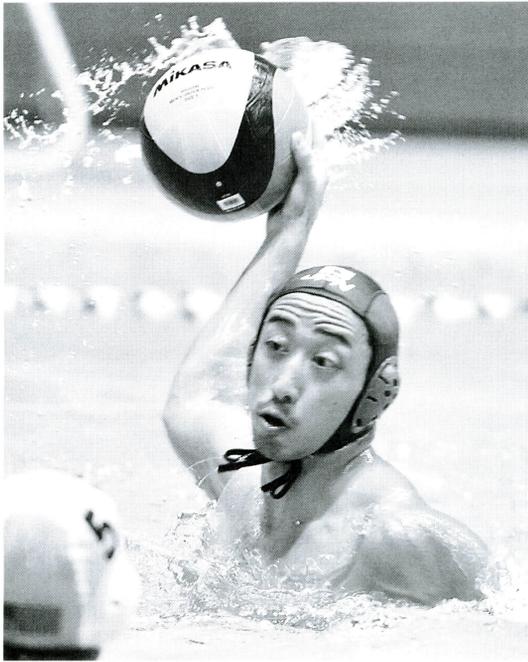


ア大会「金」に貢献
 年の難夏の記録を昨年本大会の自由形のレールが改めて更新された。今年、競泳の舞台に立つのは初めて。競泳の舞台に立つのは初めて。競泳の舞台に立つのは初めて。

昨年8月の仁川アジア大会で、競泳女子400メートル個人メドレーで優勝した内田選手

2016年（平成28年）3月 日付 上毛新聞より
〈平成27年度〉

大舞台で躍動



右サイドでの攻守にわたる活躍が高く評価される志賀

水球

志賀 光明選手

全日体大

ア大会で主力に

リオデジャネイロ五輪予選を兼ねた昨年12月の

ア大会で主力に

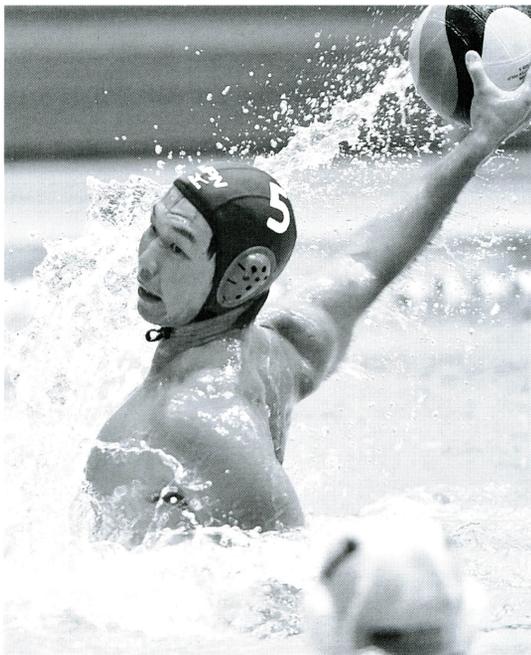
輪に向けて一直線をやっ 高校生での日本代表入り
ていく」と、夢に見た大 も果たした。
舞台を心待ちにする。 今月、登利平に入社。
持ち前のスピードや正 「地元の人たちに『良か
確なパス、判断力を生か った』と言ってもらって
し、右サイドで攻撃の組 うれしい」と、環境が整
み立てを担う。前橋商高 ったことも力に戦う。

アジア選手権で、日本代 時代は全国高校総体、国
表の主力として活躍。全 体、ジュニアオリンピック
4試合で得点を挙げ、ロクカップ（JOC）の国
サンゼルス大会以来32年 内主要大会3年連続3冠
ぶりの五輪出場に大きく に大きく貢献。将来性を
貢献した。本大会を戦う 高く評価され、2008
メンバーにも選ばれ「五 年には当時初めてとなる

水球

柳瀬 彰良選手

全日体大



チーム一の体格を生かし、海外選手とも渡り合う柳瀬

リオデジャネイロ五輪予選を兼ねた昨年12月の

予選を兼ねた昨年12月の

でも点に絡みたい」と本 味わっただけに、リオに
番に向けて意気込ん 期する思いは強い。「泳
192センチ、95キロのチ ぎがチーム戦術の要なの
ム一の体格を生かし、前 で、もつと泳ぎのスピー
線で屈強な海外選手と渡 ドやスタミナを強化した
り合う。2006年国体 い」と、一層の向上と貢
献を誓う。

リオ出場に貢献

アジア選手権に、32年ぶ 年男子県選抜チームを引
りの五輪を目指す日本代 つ張り、10年ぶりの全国
表の一員として出場。主 制覇に導いた。07年の初
に途中交代ながら、3試 選出から積み上げた代表
合で得点を挙げる活躍を キヤップ数は84に上る。
見せた。「チームの目標 ロンドン五輪予選後に
はベスト8。自分は少し 肩を手術。苦しい日々を